

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成16年8月）	今回（平成16年11月）	
鉱工業生産	おおむね横ばい	緩やかに増加	
住宅建設	大幅に減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

パルプ・紙は、新聞巻取紙や情報用紙が減少したものの、印刷用紙や雑種紙が増加したため、全体では増加している。食料品・たばこは、醤油やめん類が増加したことから、3四半期ぶりの増加となっている。電気機械は、開閉制御装置が前期の反動で増加したものの、集積回路や液晶素子が減少したことから、全体では減少している。化学は、設備メンテナンスのためナイロン原料が減少したが、医薬品や電子部品用の樹脂原料が増加したため、全体では増加している。一般機械は、金属工作・加工機械が前期の反動で減少したものの、国内向け半導体製造装置や船舶用クレーンが好調であり、2四半期連続の増加となっている。



(備考) 平成16年9月の四国は速報値。

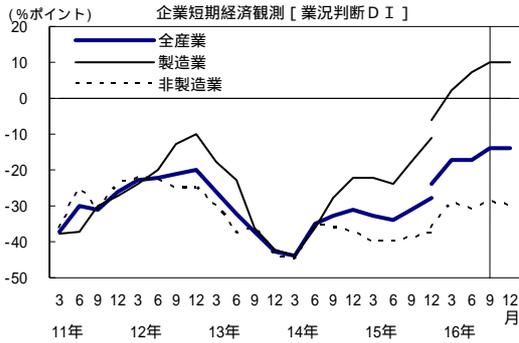
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
パルプ・紙	13.3	2.4	1.4	0.3	0.6
食料品・たばこ	13.3	6.0	1.7	3.1	13.4
電気機械	12.8	9.5	7.1	4.6	29.3
化学	12.7	2.8	7.5	10.1	12.9
一般機械	11.3	6.6	7.4	1.2	11.7
鉱工業	100.0	0.1	1.7	1.7	3.5

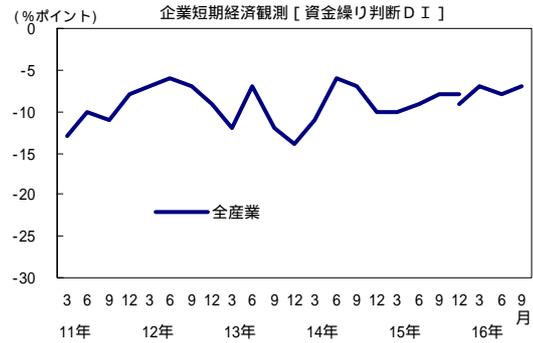
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7～9月期は速報値。

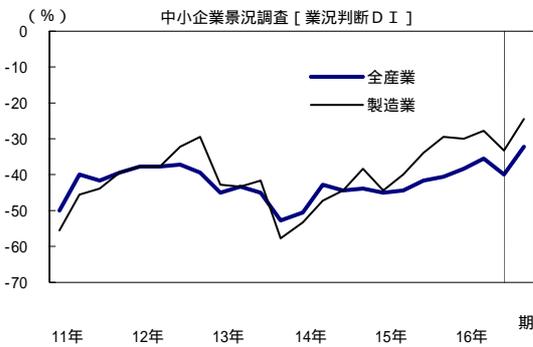
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「受注は増える傾向にあるが、原油高により、染色加工賃の値上がりの動きも出てきている(繊維工業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

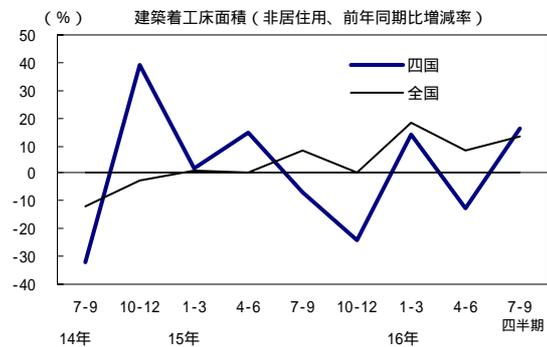
(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	15年度実績	16年度計画
全産業	6.6	10.1 [10.3]
製造業	4.8	5.7 [5.2]
非製造業	7.7	20.4 [20.2]

(備考) [] は前回 (6月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

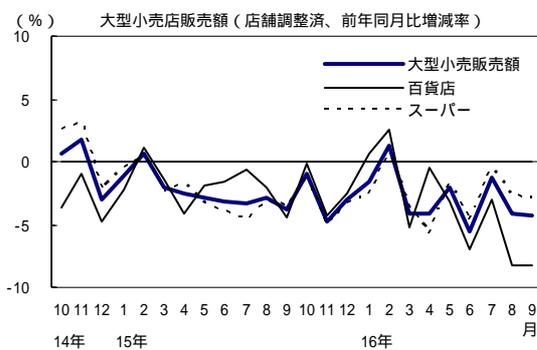
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は台風などの天候要因で入店客数が減少したことなどから、夏物衣料品のセール後半が伸び悩み、前年を下回った。8月は台風や猛暑の影響で衣料品などの秋物商品の動きが低調であった。9月も台風や残暑の影響で、衣料品や身の回り品などの秋物商品の動きが低調であり、7か月連続で前年を下回っている。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の10月の売上高は、前年同月比で4.0%減となっている。

スーパーは、7月、8月と猛暑の影響で飲食料品が好調であったが、秋物衣料品が振るわず、台風の影響もあったことから7か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

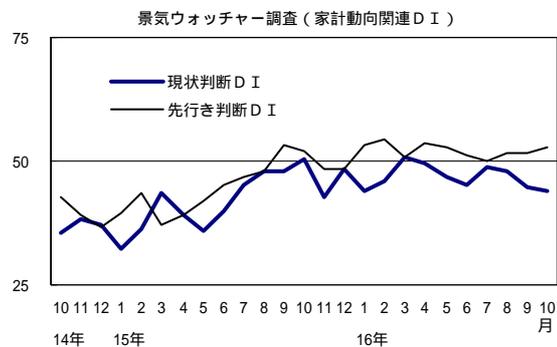
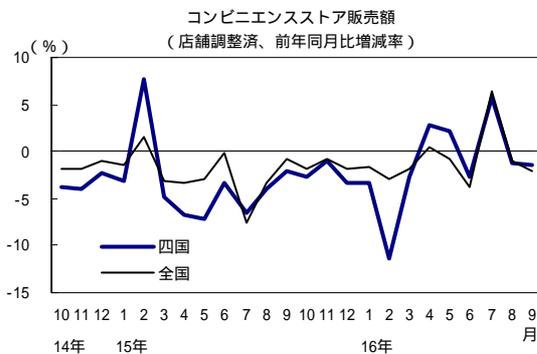
「客単価については、安値定着の感がある。また、台風の影響によって野菜が高騰しているため、原材料価格が上昇し、収益が悪化しつつある(一般レストラン)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.0	1.7	3.9	3.2
百貨店	2.4	1.0	3.5	6.0
スーパー	3.2	2.0	4.1	2.0
コンビニ	2.4	5.8	0.7	0.9
景気ウォッチャー	47.2	46.9	47.2	47.2

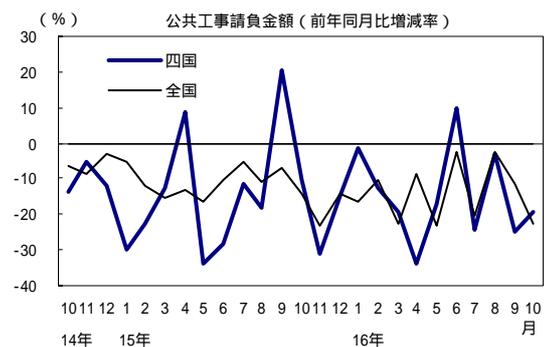
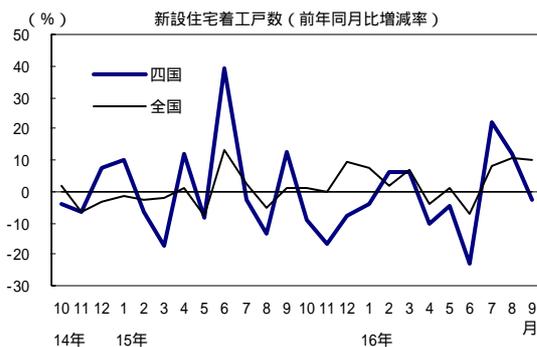
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲が減少したものの、貸家、持家が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

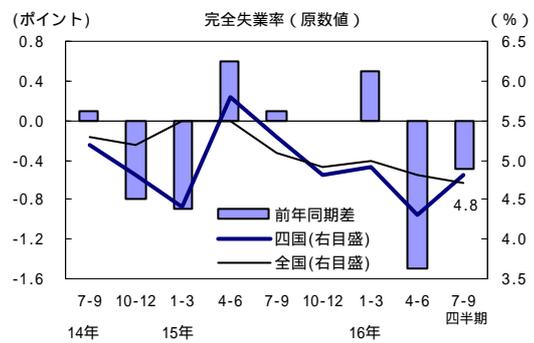
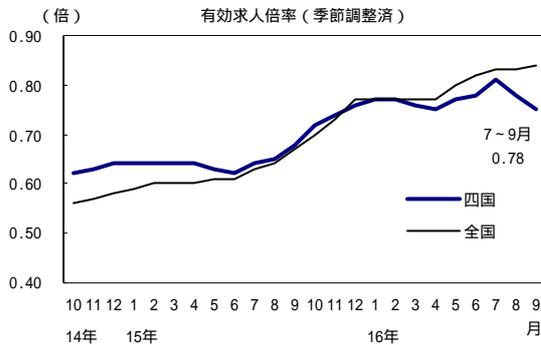


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

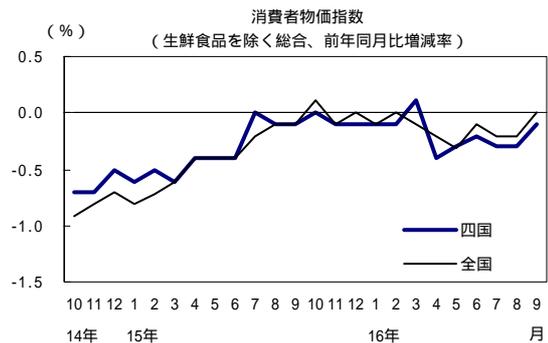
「以前は、派遣登録に来る人は、失業中の人が多かったが、最近は転職希望の人が増えてきている(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月	16年10月
倒産件数	89	106	90	92	30
(前年比)	40.3	12.4	39.6	20.0	11.8
負債総額	263	322	219	136	58
(前年比)	3.7	8.1	73.2	72.0	30.3



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計DI(特徴的な判断理由)]

<現状>

・3か月前と比べると、取引先との決算料や顧問料などの集金が悪くなってきている。これは各企業の資金繰りが悪化してきているものと推測でき、このことから、景気は若干悪化してきているのではないかと考えられる(公認会計士)

<先行き>

・台風や中越地震被害の処理対応など、今後、取引先からの特需が発生してくる(一般機械器具製造業)。

